令和３年度　学校保健概要調査

１　発育の状況

年齢別身長・体重の平均値（全国と岡山県との比較）

◯：全国平均より上　□：全国平均と同じ　無印：全国平均より下

区分			身長（cm）		体重（kg）	
			全国	県	全国	県
男子	幼稚園	５歳	１１１．０	１１０．６	１９．３	１９．１
	小学校	６歳	１１６．７	１１６．２	２１．７	２１．３
		７歳	１２２．６	１２２．６	２４．５	２４．６
		８歳	１２８．３	１２８．２	２７．７	２７．６
		９歳	１３３．８	１３３．４	３１．３	３０．７
		１０歳	１３９．３	１３８．７	３５．１	３４．６
		１１歳	１４５．９	１４５．２	３９．６	３８．８
	中学校	１２歳	１５３．６	１５３．２	４５．２	４４．９
		１３歳	１６０．６	１５９．５	５０．０	４９．４
		１４歳	１６５．７	１６５．３	５４．７	５４．１
	高等学校	１５歳	１６８．６	１６８．０	５９．０	５８．８
		１６歳	１６９．８	１６９．２	６０．５	５９．７
		１７歳	１７０．８	１７０．４	６２．４	６１．５
女子	幼稚園	５歳	１１０．１	１１０．１	１９．０	１８．７
	小学校	６歳	１１５．８	１１５．５	２１．２	２１．０
		７歳	１２１．８	１２１．７	２３．９	２３．８
		８歳	１２７．６	１２７．５	２７．０	２７．０
		９歳	１３４．１	１３３．３	３０．６	３０．０
		１０歳	１４０．９	１４０．３	３５．０	３４．５
		１１歳	１４７．３	１４７．１	３９．８	３９．５
	中学校	１２歳	１５２．１	１５１．８	４４．４	４３．８
		１３歳	１５５．０	１５４．５	４７．６	４７．６
		１４歳	１５６．５	１５６．４	５０．０	５０．４
	高等学校	１５歳	１５７．３	１５６．８	５１．３	５２．３
		１６歳	１５７．７	１５７．２	５２．３	５１．４
		１７歳	１５８．０	１５７．３	５２．５	５２．６

（注１）年齢は令和３年４月１日現在の満年齢である。

（注２）幼稚園には幼保連携型認定こども園、小学校には義務教育学校（第１～６学年）、中学校には義務教育学校（第７～９学年）及び中等教育学校の前期課程、高等学校には中等教育学校の後期課程を含む。

○男子は7歳の体重で全国平均を上回った。女子は、14 歳、15 歳及び 17 歳の体重で全国平均を上回った。

上記は文部科学省の令和３年度学校保健統計調査（抽出調査）（速報値）による。

○　調査実施校
幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び義務教育学校のうち、文部科学大臣が指定する学校

○　調査期間
令和３年４月から令和４年３月

2　学校種別疾病異常の状況

（注）被患率とは、定期健康診断において医師等により、疾病異常と診断された者の割合

被患率＼学校種		幼稚園	%	小学校	%	中学校	%	高等学校	%
20%以上30%未満				裸眼視力1.0未満	25.4%	裸眼視力1.0未満	25.9%	矯正視力1.0未満	27.0%
						矯正視力1.0未満	24.5%	裸眼視力1.0未満	21.0%
10%以上20%未満		裸眼視力1.0未満	18.5%	むし歯	19.8%	むし歯	12.9%	むし歯	14.5%
		むし歯	16.1%	鼻咽頭疾患	16.5%	鼻咽頭疾患	11.4%		
		鼻咽頭疾患	10.6%						
1%以上10%未満	8～10%			矯正視力1.0未満	9.3%	肥満傾向	9.4%	鼻咽頭疾患	9.1%
				肥満傾向	9.0%			肥満傾向	8.8%
	6～8%	耳疾患	7.0%	耳疾患	7.8%			その他の眼疾患	6.3%
	4～6%	その他の眼疾患	4.5%	ぜん息	5.9%	その他の眼疾患	6.0%	ぜん息	4.6%
				その他の眼疾患	5.9%	耳疾患	5.7%	歯周疾患(Gのみ)	4.2%
				その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	5.1%	ぜん息	4.5%		
						歯周疾患(Gのみ)	4.0%		
	2～4%	その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	3.3%	歯列・咬合の異常	3.1%	歯列・咬合の異常	3.1%	耳疾患	3.2%
		肥満傾向	3.0%	歯周疾患(Gのみ)	2.4%	痩身傾向	2.7%	痩身傾向	2.9%
		心臓の疾患	2.6%			その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	2.6%	歯列・咬合の異常	2.9%
		ぜん息	2.4%						
	1～2%	聴力異常	1.9%	心臓の疾患	1.7%	心臓の疾患	1.9%	心臓の疾患	1.6%
		皮膚疾患	1.4%	聴力異常	1.2%	皮膚疾患	1.2%	皮膚疾患	1.3%
		矯正視力1.0未満	1.3%	皮膚疾患	1.2%	せき柱側わん	1.0%	その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	1.1%
				痩身傾向	1.1%				
1%未満	0.5～1%			せき柱側わん	0.5%	腎臓疾患	0.9%	聴力異常	0.6%
						聴力異常	0.8%	腎臓疾患	0.6%
								せき柱側わん	0.5%
	0.1～0.5%	痩身傾向	0.4%	四肢の異常	0.3%	四肢の異常	0.3%	顎関節の異常	0.3%
		感染性眼疾患	0.3%	腎臓疾患	0.3%	胸郭異常	0.1%	貧血	0.2%
				胸郭異常	0.1%	顎関節の異常	0.1%	四肢の異常	0.1%
0.1%未満		せき柱側わん		感染性眼疾患		貧血		胸郭異常	
		四肢の異常		顎関節の異常		栄養不良		感染性眼疾患	
		腎臓疾患		栄養不良		感染性眼疾患		栄養不良	
		歯周疾患(Gのみ)		貧血					
		胸郭異常							
		栄養不良							

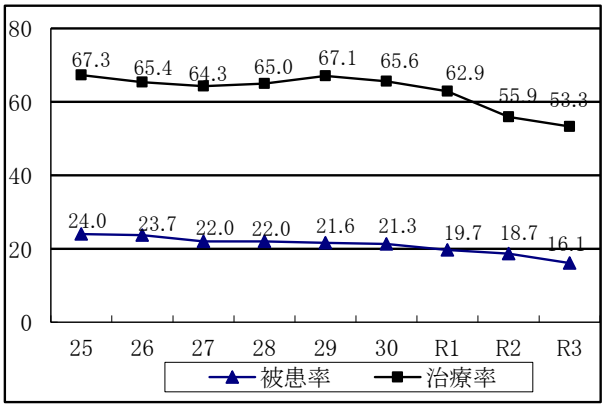
※裸眼視力の被患率は、裸眼視力1．0未満の人数÷視力を測定した人数×100で算出。
　矯正視力の被患率は、矯正視力1．0未満の人数÷視力を測定した人数×100で算出。

○疾病異常を被患率別にみると、幼稚園及び小学校においては「裸眼視力1．0未満」が最も高く、次いで「むし歯」「鼻咽頭疾患」の順となっている。中学校においては「裸眼視力1．0未満」が最も高く、次いで「矯正視力1．0未満」「むし歯」の順となっている。高等学校においては「矯正視力1．0未満」が最も高く、次いで「裸眼視力1．0未満」「むし歯」の順となっている。

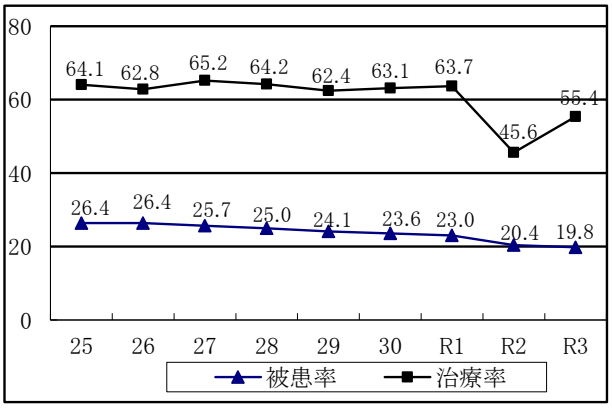
3　むし歯の状況

①治療していないむし歯（乳歯・永久歯）のある者の割合及び治療率の推移

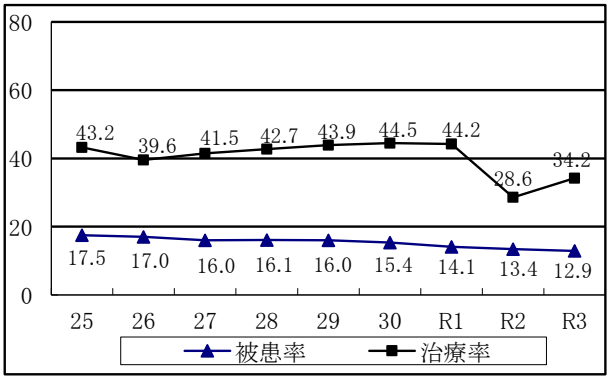
（%）　幼稚園



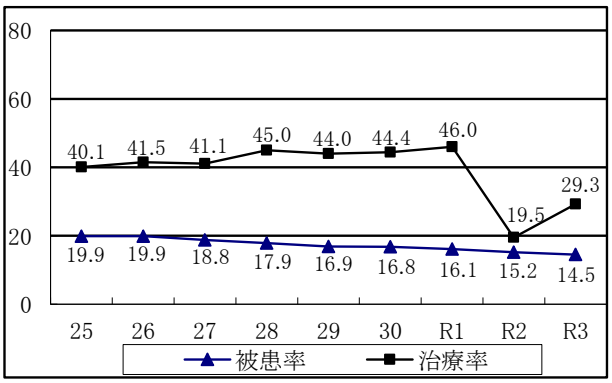
（%）　小学校



（%）　中学校



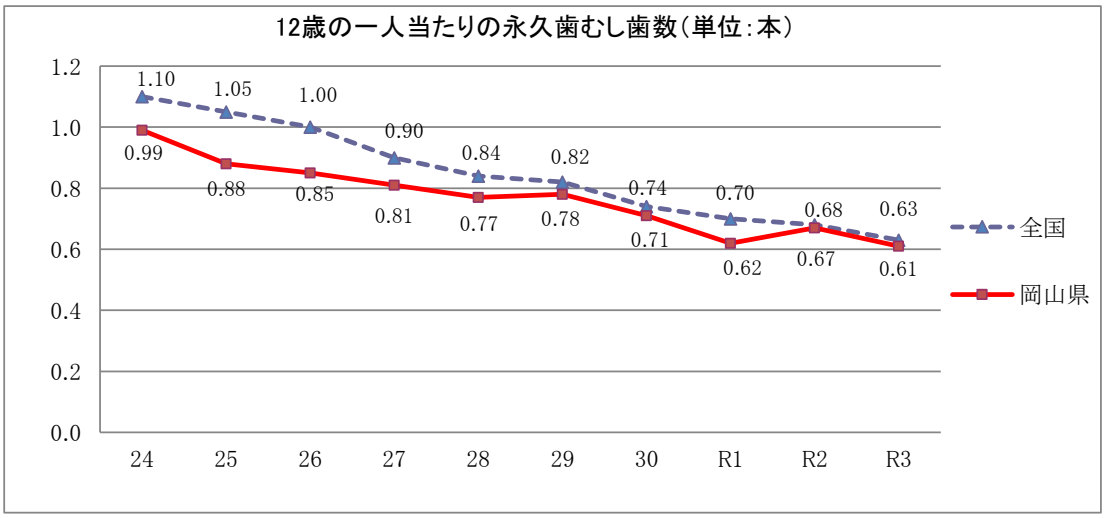
（%）　高等学校



（注）被患率とは、定期の歯科検診時における未処置歯保有者の割合。
（注）治療率とは、定期の歯科検診後、むし歯の治療勧告を受けた者が、その年度の12月１日までに治療を受けた割合。

②12歳（中学１年生）の一人当たりの永久歯むし歯数（ＤＭＦ歯数）の推移

※ＤＭＦとは・・・　Ｄ（未処置歯）
Ｍ（むし歯による喪失歯）
Ｆ（処置歯）

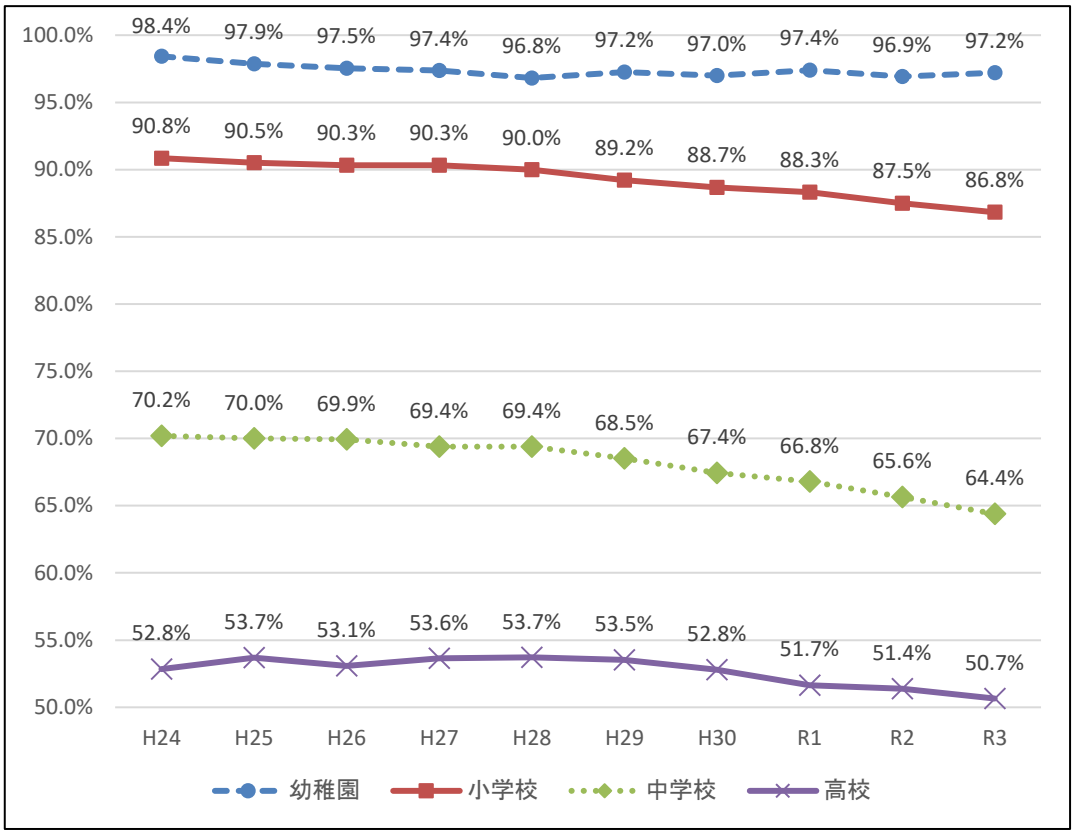


（注）全国の数値は文部科学省の学校保健統計調査（速報値）による。

○むし歯の被患率は全学校種において減少傾向にある。治療率について、令和2年度は全学校種において例年と比較して著しく低下しているが、令和3年度は幼稚園以外の学校において回復傾向にある。12歳の一人当たりの永久歯むし歯数（DMF歯数）は平成24年度以降1本未満を維持している。

4　視力の状況

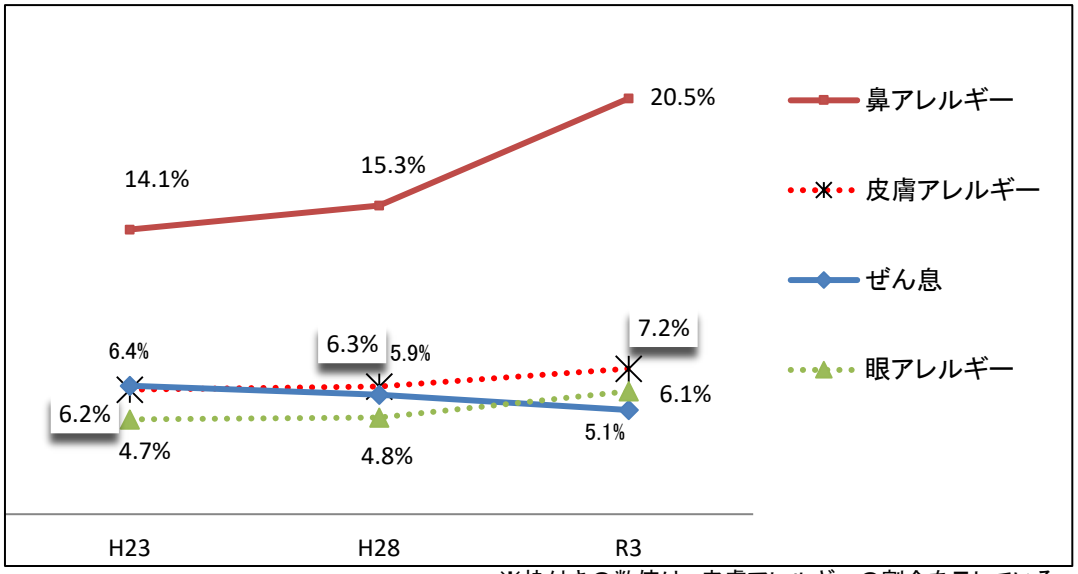
裸眼の視力検査を受けた者の割合



○10年前と比較すると、裸眼の視力検査を受けた者の割合は、全学校種において減少傾向にある。
特に小学校及び中学校の減少率は、他の学校種と比較して高い。

5　アレルギー疾患・ぜん息の状況

次の数値は、校医の診断及び保護者の保健調査票等から、学校が把握したアレルギー疾患を持つ児童生徒の割合である。

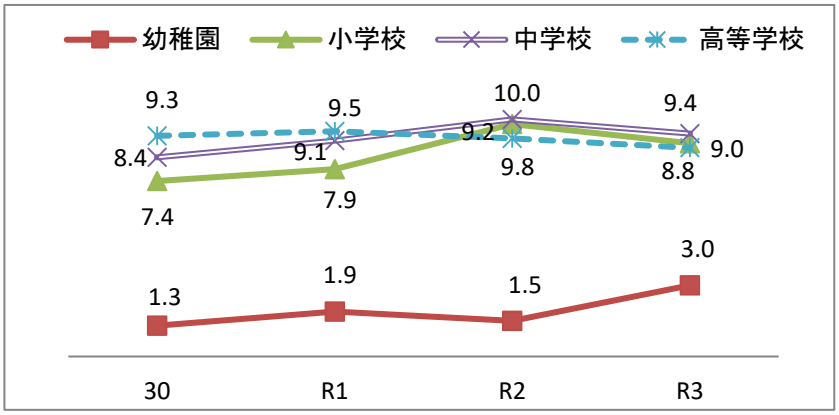


※枠付きの数値は、皮膚アレルギーの割合を示している。

○10年前と比較すると、アレルギー疾患を持つ児童生徒が増加している。
特に鼻アレルギーの増加は著しい。

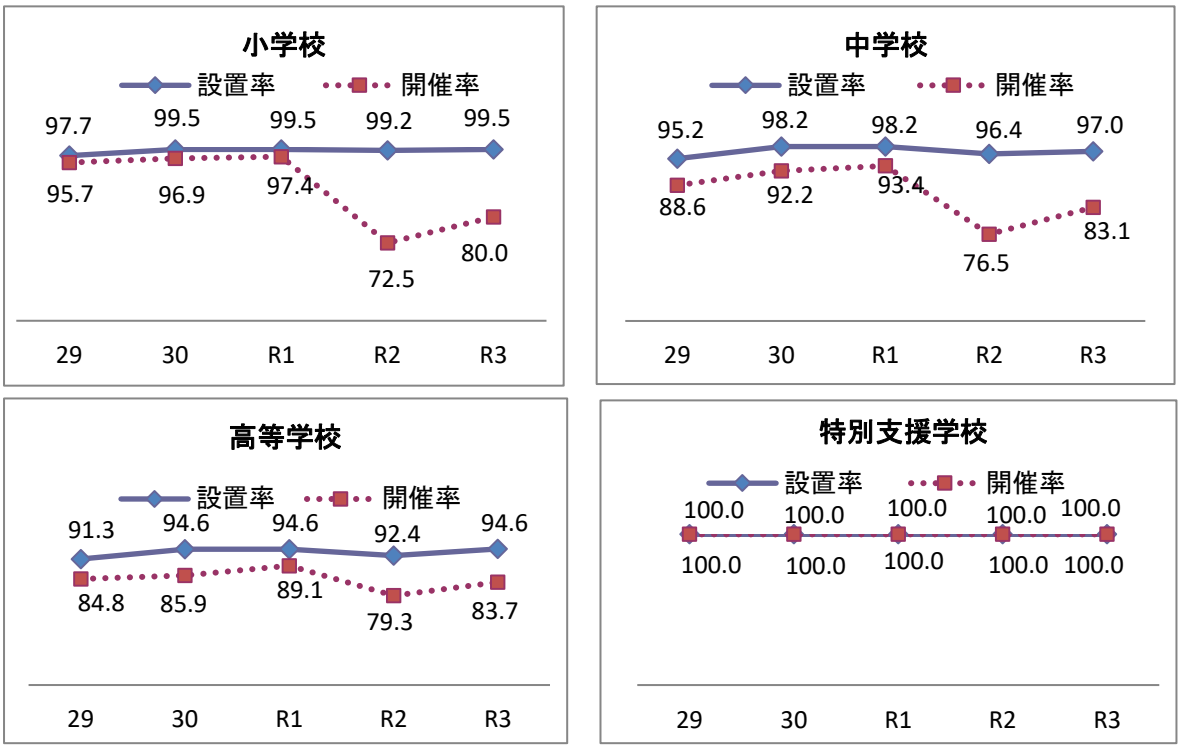
6　肥満の状況

肥満については、「性別・年齢別・身長別標準体重」から肥満度を算出し、肥満度２０％以上の者を肥満傾向としている。



〇小学校、中学校及び高等学校においては肥満の発現率が減少しているが、幼稚園においては肥満の発現率が増加している。

7　学校保健委員会の設置・開催状況



〇設置率は、すべての学校種別において昨年とほぼ同率である。開催率は特別支援学校以外の学校種別では、昨年度に引き続き、例年と比較して低くなっているが、新型コロナウイルス感染症の影響による開催の中止がその要因の一つとして考えられる。特別支援学校においては、設置率・開催率ともに100%である。

◇学校保健委員会とは

校長・養護教諭等教職員、保護者代表・児童生徒代表・学校医等・地域関係者等を委員とし、各学校における健康に関する課題を協議し、子どもたちの健康づくりを推進するための組織である。主に保健主事等が運営にあたる。

第8次岡山県保健医療計画では、学校保健委員会の設置率を令和5年度までに小学校、中学校及び高等学校で100%とすることを目標としている。